

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102297		
法人名	有限会社 スローライフ・プランニング		
事業所名	グループホーム ぎんなん		
所在地	長崎県西海市西彼町下岳郷733番地1		
自己評価作成日	平成24年2月 日	評価結果市町村受理日	平成24年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成24年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者本人、家族の意向に耳を傾けその意思に寄り添う介護を行ないたいと思います。利用者の方々お一人お一人の思いで生きさせていただきたいと考えています。また、社会参加を促し、地域との関りを深め生きがいを見出してもらいたいと考えます。</p> <p>(アピールしたい点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正社員・パート等全員で利用者に関わる ・全員で常に見直しをかけ全員でお守りする ・職員が優しく、年齢層が幅広い ・開放感のある施設・風光明媚な環境 ・どんぐり銀行などを行い、障害者・児童を受け入れる事の出来る場所を目指しているところです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>長崎県西海市にある“グループホームぎんなん”からは海や山を眺める事ができ、夏にはお部屋の窓から地区の花火大会を楽しむことができる。玄関のベンチやリビングのソファなど、ご利用者はお気に入りの場所で過ごされており、ホーム内を歩いて運動している方もおられる。リビングにはお香をたいている時間もあり、安らかな気持ちで過ごせるようにという職員の心配りが感じられる。リビングは日当たりも良く、皆さまの愛情もあって、蘭の花は毎年綺麗な花を咲かせている。社長手作りの郷土料理“にごみ”等も楽しみの一つであり、ご利用者は干し柿作りやツワの皮むき等を手伝って下さっている。職員の入れ替わりも経験しているが、職員は現場で昼夜頑張っており、「尊敬、傾聴、寛容、受容、愛情」という理念の実現のための現状分析も続けている。今後も引き続き、施設長と職員全てのチームワークを強化するために、現状認識を共通にした上で、より良くなるための方法が検討されていく予定である。“ぎんなん”の事を大切に思っている職員が多く、“ぎんなんのご利用者”のために、“全員で常に見直しをおこない、全員でお守りする”ことを目指しながら歩まれているホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢認知症であっても、我が家に居るように自由に(買い物、床屋、通院、ドライブ等)地域との関わりを持ち、利用者が地域の中でその人らしく暮らせるよう、カンファレンスを行い、実践している。	『尊敬、傾聴、寛容、受容、愛情』という理念を掲げ、ご利用者に敬意を表し、思いに耳を傾け、寛容な気持ちで受け止め、愛情を持って接するように職員は努めており、理念に共感している職員は多い。ご利用者との関わりの中で仕事のやりがいを感じる方がほとんどで、ご利用者からの学びも頂いている。	職員は理念に共感して“ぎんなん”で働いている職員が多い。ホームの現場で日夜仕事をしているからこそ分かる現状があり、現場の職員の頑張りと現状の課題を施設長と職員が共有し、課題解決に向けた取り組みに繋がっていくことを期待したい(項目7も共通)。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の催し物へ利用者に参加し、地域との付き合いを深めている。近所の理容店などから出向いていただき、利用者の散髪を行っていただいたり、七夕の時には近所の幼稚園から慰問いただき交流を行った。	地域のバザーや近くのホームの夏祭り、竜神祭にご利用者と一緒に参加し、ホームの夏祭りや敬老会に地域の方をお招きしている。園児がホームに来て下さり、中学生の職場体験の受け入れも行われ、ご利用者も喜ばれた。民生委員や買い物に行っているスーパーの方等にも運営推進会議に参加頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回設け、駐在所や地域の民生委員、行政の方へ参加して頂き、事業所での支援方法や認知症についての意見交換を行い協力体制を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回実施しており、利用者の状況報告を行ったり、地域の方々からご意見をいただいたりし、消防訓練の参加や各種行事への参加協力をいただいている。	毎回、話題を広げていくために、会議内容に応じて派出所の方、スーパーの方、薬剤師等のゲストにも来て頂き、それぞれの立場から情報を頂いている。地域の民生委員の方も、「会議の内容を地域の方に伝えます」と言って下さり、良き情報交換の場になっている。ご利用者の様子を写真で投影し、生活内容の報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所において、市町村と常に関わりを持ち、生活保護や権利擁護事業を利用している。利用者が居る為、協力を得て取り組んでいる	市からの依頼で、認知症サポーター講師、認知症地域支援体制構築等推進協議会委員を務めており、職場体験の受け入れ等もしている。ご利用者の福祉用具購入に関する相談や、他市町村からの利用者の受け入れについて、市の担当者に相談し助言を頂いている。運営推進会議の場でも意見交換ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ぎんなんの基本理念に基づき、「心豊かに、安らかに、その人らしい生活」を過ごして頂ける様な、サービスの提供を理解し、職員主体の考えや思いを押し付けず、利用者が明るく生きがいの持てる健全な生活を支援している。	できるだけ、ご本人に歩いて頂けるように支援していきたいと考えており、ご本人の意思を尊重しながら、職員の見守りや介助を続けている。その事で転倒のリスクがある事を家族に説明し、話し合いもしながら日々のケアを続けている。日々、身体拘束に繋がる行為や言葉がないか、職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングやカンファレンス等で虐待防止についての意見を交わし、意識を高めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を活用して利用者のお金の管理等を依頼し、また、必要に応じて相談を行い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長やケアマネジャーを中心に十分な説明とご理解を得た上で、契約の締結を行い、その際、利用者や家族の不安ごとや疑問点等伺うようにし、安心して利用できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会へ来られた際には、日頃の様子を報告し、そこで、家族からの意見や要望を話せる環境をつくり、意見を取り入れ、反映している。	面会時や電話で家族の要望を伺い、「薬の服用」「看取り」についての要望も聞かれており、その都度検討するようにしている。ご本人からは団欒の時に「晴れてるけん。ドライブに行こう」「玄関先の花を摘みにいきたい」など、日頃の会話から要望を伺うようにしており、日々のケアに活かすようにしている。	昨年開催できなかった家族会を開催し、今後も家族から本音を語って頂けるように努めていく予定である。家族の訪問時に笑顔でお迎えし、ゆっくりと会話ができる環境を作りたいと考えている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月2回設け、職員の意見や提案があれば、検討し反映するよう努めている。	原則、スタッフ全員参加のミーティングを月1回実施している。企画書の提出も行われており、各職員からの意見や提案をリーダーが徴集し、施設長へ相談している。「認知症の知識について学びたい」との意見が上がり、勉強会が行われた。各担当職員が月行事については企画書を作成し、実施している。	昼夜含めての現場の状況を施設長と共有し、課題分析を行いながら、具体的な対策を明確に打ち出していく時期にきている。現場の頑張りと課題(職員の意見)を含めて、職員と一緒に検討する機会が今後も作られる事を期待していきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況を把握し、賃金の見直しを図り、各自が向上心をもって、働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内・外への研修参加を促している。 他の施設への見学推進。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学などを行ったり、他の施設と相互訪問等を行い意見交換などを通じ、質の向上させていくよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴などをお聞きし、その方を知ることにも努めている。その上で本人のお困りごとや要望など伺い、本人が安心して生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直接、家族と面会し、お困りごとや不安などお聞きし、当施設についても説明し、理解して頂くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人と相談する中で、必要としている支援を見極め、必要があれば他のサービス利用検討や提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の置かれてきた環境を理解したうえで、一緒に行動したり、ゆっくりとお話を伺ったりし、暮らしを共有する同士の関係を構築できるよう努めている。また、本人が出来ないところを職員が支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られたとき、利用者の日ごろの様子をお伝えしたり、ご意見をお伺いしたり、催し物会などに家族を招待し、共に楽しい時間を過ごすようにしている。上記をもって、ご家族と情報を共有し、利用者を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の行きつけのお店を把握しておき、引き続き利用できるよう支援している。思い出の場所へのドライブにお誘いしたりしている。	毎月友人が面会に来て下さり、手作りのカレンダー等を持って来て下さる。当時の状況などを伺い、どの様な暮らしをされていたのかを把握するように努めている。お知り合いから届け物があった時にはお礼の電話を行い、ご利用者が直接お礼を言えるようお手伝いしている。家族と一緒に美容院やお墓参りにも行かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士を席を近くにしたり、会話がしやすいようにしている。また、コミュニケーションが難しい時は、職員が中に入り、仲をとりもつよう心がけている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等にお誘いし、関わりを断ち切らないよう努めている。また、ご家族から困った事があった時は親身に相談するよう心掛けている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに添ったケアができる様、日々の関わりの中での情報を大切にしている。カンファレンス等で利用者の思いをスタッフ全員で考えている。	アセスメント時に11分類シートを活用し、センター方式や“Aさんらしさ探しシート”も利用しながら、思いや意向の把握を行っている。面会時や電話等で家族の意向や気づきも伺っている。意向の把握が難しい方には、日々の関わりの中で表情や言葉などからその方の思いを探り、カンファレンスを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方が歩んで来られた生活歴を大切にしている。家族、本人、周囲の方から出来る限りの情報を集め、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の様子や、スタッフの毎日気付きは生活チェック表へ記入し、スタッフが把握出来るようにしている。そしてその気付きをカンファレンスで話し合いスタッフ皆で確認、検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に2回程ユニットカンファレンスを行い、本人の思い、家族の思い等に基づき、スタッフで意見やアイデアを出し合い現状に即したケアが出来るようにしている。	ご本人や家族の希望をもとに、可能なものは介護計画に取り入れ、日々のケアに活かしている。“地域のゲートホールに参加する”など、地域で暮らすと言う視点も大切にしている。全員がケアプランを意識できるように、介護計画の実践状況を職員個別のノートに書いていた時期もあり、着実に観察力が身につけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に活動状況を記すことで、各利用者の生活状況をスタッフ間で共有している。また、気づきや課題を発見できるようスタッフ各自でモニタリングを行い、ノートに記録し、カンファレンスなどで話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の日々の様子、家族のご意見をお聞きし、情報収集に努め、必要であればその都度スタッフ間でカンファレンスを利用し、その方に必要なケアが提供できるよう支援している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が使用していたお店や参加していた活動などがあれば、引き続き利用、参加できる様支援し、生活を楽しむ事ができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と掛かりつけ医の関係を大切に、本人が信頼している医療機関へお連れしている。また、家族の意向をよくお聞きし、本人が判断できない場合は、家族が納得・信頼できる医療機関へお連れしている。	希望する医療機関で受療頂いており、職員が通院介助を行い、他科受診の状況も医師に報告している。通院が困難な方は往診を受けており、家族との受診結果の共有もできている。職員の観察力も高まり、早期発見・早期治療に努め、OT、管理栄養士、言語聴覚士によるアドバイスも頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活記録やバイタルチェック通し、利用者の様子を主治医に報告・相談し、健康管理の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境が変わり、混乱される方が多いため、早期に退院できるよう、病院側との相談や治療内容を確認しながら早期に受け入れられるよう医療機関と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針をご家族へお伝えし、重度化した場合や終末期のケアについて医療機関も交え、何度も話し合いを持ち、ご本人にとって一番良い選択ができる様に支援している。	要望があれば、「終末期ケアをさせて頂く」ことを説明し、意向の確認も行っている。「最期はホームで」と言う方もおられるが、医師との連携もと、病状に応じては入院治療の手続きもしている。ご本人の希望に添ったケアができるよう、家族、主治医と何度も話し合いを行い、必要時には訪問看護を利用して、看取りケアを行わせて頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時は、応急措置などをケアマネージャーから随時指導・アドバイスを受け、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、職員がとっさの時にスムーズに動く事が出来るように努めている。また、運営推進会議には地域の方や、消防職員をお呼びし、協力を依頼している。	23年11月には職員、ご利用者、消防署の職員、民生委員（一般住民の方）に参加して頂き、昼夜を想定した訓練が行われた。近隣の方を中心に災害時の連絡体制が取れており、ホームに近い職員から連絡が行く体制となっている。災害時に備えた乾物などはあるが、備品等の検討も行う予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの思いを大切にし、会話の時には、スタッフが否定的な言葉を使わないよう心がけ、利用者の立場に立って、お困りごとと一緒に考えるように、気をつけている。	利用者一人一人の思いを大切に言葉かけを心がけ、職員の視点ではなく、ご利用者の視点に立ち、その方にとってのお困りごとと共に、ご本人のプラス面を考えるようにしている。排泄時の声かけなどにも配慮を続けている。	気持ちに余裕がない時など、配慮に欠けた言葉かけになる時がある。“業務優先”になっていないかの確認を行い、今後も理念の振り返りを行う予定である。優しい職員が多く、職員同士の助け合いが発揮されていくことを期待していきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの思いを押し付けないように心掛け、利用者の言葉に耳を傾け、思いが引き出せるような言葉がけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを把握し、できる限りそれに添った過ごし方ができるよう支援しているが、職員側の都合によっては、支援できない場合もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き付けの床屋や美容院へ行き、身だしなみやおしゃれができる様、希望があればお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や洗い物など、利用者と職員が一緒に行っており、利用者が出来ることはお手伝いいただき利用者と会話をしながら楽しく行っている。	畑の野菜や季節の山菜をご利用者と収穫して食べており、社長手作りの“にごみ”等も楽しませている。ご利用者の嗜好を把握している栄養士が献立を作っており、言語聴覚士が嚥下状況を見られ、きざみの状況等、その方にあつた食事が提供されている。ご利用者は、干し柿作りやツワの皮むき等も手伝って下さる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分量を生活記録に記し、摂取量が減った方は主治医に相談を行っている。言語聴覚士に嚥下の状況を見て頂き、きざみの状況等、その方の状況に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	単に口腔ケアの声がけをするのではなく、一人ひとりの口腔状態が清潔に保てるよう、仕上げ磨きも行っているが、自立されている方の口腔内状態の把握は不十分である		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄しにくい方はスタッフが、太ももお尻を軽く刺激する事でトイレ内で排泄する事ができ、なるべくトイレでの排泄の自立にむけた支援を行っている。意思表示できない方は表情や仕草を見ながら支援している。	トイレで排泄して頂くことが大切と考え、排泄パターンを把握し、個別に応じた声かけも工夫し、トイレ等での排泄ができるように努めている。職員が言葉かけをする事で、パッドの枚数を減らしたり、トイレで排泄できる回数が増えた。日頃の会話を大切に、その方が羞恥心や不安を感じない言葉かけを意識している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬だけに頼るのではなく、便通を促す飲み物や果物を摂取していただいたり、腹部マッサージなどを行い、便秘解消の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活チェック表に入浴の有無を記入し、入浴日のチェックを行い、入浴を好まれない方には言葉掛けを工夫している。職員の都合ではなく、一人一人の体調や気分なども考慮し支援を行っている	ご本人の希望を優先して毎日入浴できるようにしている。希望に応じて1日おきや通院前に入浴される方もおられ、その都度対応している。菖蒲湯で季節を感じ、会話をゆっくり楽しみ、歌を唄われる方もおられ、入浴を楽しんで頂いている。入浴を好まれない方には声かけを工夫し、家族面会時にも協力して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や、その時の状況に応じて、休憩をとってもらうよう配慮し、利用者に合わせて支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援を行うと共に、新しい薬が追加された時は、服薬後の様子を観察し、主治医へ報告している。また、利用者一人ひとりが使用している薬を把握し、症状に変化があれば、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会では、その方の得意や趣味を活かし、張り合いを感じて頂けるよう努めている。また、日常では、洗濯物たたみや料理の下ごしらえなどご本人が出来るように支援している。皆で昔の歌をうたい気分転換等の場を作っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物にお連れしたり、時にはドライブへ出かけることもある。また、地域の行事への参加できるよう支援している。ご本人の意向に添えない場合でもICFの視点に立ち、スタッフ間で話し合いより良い支援ができるよう努めている。	季節に応じた花見も楽しまれており、水辺の森公園、伊佐の浦公園、西海橋へのドライブにも行かれている。ホームの敷地は広く、周囲をお散歩する等、外気に触れる機会が設けられ、買い物へ出かける等の支援も行われている。玄関前には広い庭があり、愛犬との触れ合いも楽しんでいるが、砂利道でもあり、車椅子の方も安全に移動できる方法を検討予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な方にはご自分で管理して頂いている。また買い物での支払いの際には本人が払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話を設置しており、利用者の希望があれば、ご家族と連絡がとれるようにしている。年賀はがきや手紙などを書くことができるように、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング等に季節の花を活け、また、利用者の方に活けていただいたりして、楽しんでいただいている。トイレやリビングなど共有空間は十分は広さや明るさを確保している。	玄関のベンチやリビングのソファなど、ご利用者はお気に入りの場所で過ごされており、ホーム内を運動している方もおられる。リビングではお香をたく時間もあり、安らかな気持ちで過ごせるように心配りを続けている。ご利用者の状況に応じて、ソファやテーブルの位置も変更している。リビングには観葉植物も置かれ、蘭の花も毎年花を咲かせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中に食事の席とソファを別に設け、利用者が思い思いに過ごせるよう環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物を持参していただいたり、馴染みのある環境づくりに配慮し、ご家族と一緒に写った写真を目に付くところに飾ったりと居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の窓からは海や山を眺める事ができ、夏には居室から花火(地区の花火大会)を楽しまれている。お部屋は窓を2面にとり、直接の光が当たりにくい設計にしており、使い慣れた家具や座椅子、テレビなどを好みの場所に置かれている。お仏壇や家族から贈られた植物、本、趣味の物など、大切な物も持参されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不安がある方には、居室内に夜間ポータブルトイレを設置していることで、安全に自立排泄が可能となっている。洗面所には安定したイスを配置し、自立に不安な方も、自力で洗面などができる様、工夫している。		

事業所名: グループホーム ぎんなん

作成日: 平成 24 年 3 月 15 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員は理念に共感して「ぎんなん」で働いている職員が多い。現場の職員のがんばりと現状の課題を施設長と職員が共有し、課題解決に向けた取り組みにつながっていくことを期待したい。	施設長と職員が共通認識を持つ	施設長と職員の面談を実施する また、施設長と職員が話し合う機会を増やし、共有課題もち、具体的な対策を共に考えていく	12 ヶ月
2	6	昨年開催できなかった家族会を実施し、今後も家族から本音を語って頂けるよう関係を築いていきたい。家族の訪問時は笑顔でお迎えし、ゆっくりと会話が出来るよう環境を作っていきたい。	家族会の実施	今年は、家族会を6月に開催する計画としてのご家族とのコミュニケーションは、受診後の経過報告や、なかなか面会できないご家族に対してはお手紙などで近況報告を行なっていきたい。	12 ヶ月
3	14	気持ちに余裕がない時など、配慮に欠けた言葉かけになる時がある。”業務優先”になっていないかの確認を行い、今後も理念の振り返りを行う予定である。また、職員同士の助け合いが発揮されていくことを期待したい。	業務優先ではなく利用者中心のケアを行えるよう務める	全体会議を利用し、定期的に理念を再確認し、業務優先になっていないか、各自が振り返る機会をつくり、利用者中心のケアを考える。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月